

令和5年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

6年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価(成果と課題)
国語	<p>○知識・技能は80%の到達度であるが、「書く」では、自分の考えを文章で分かりやすく表現することに課題が見られる。「読む」では、情景描写に着目して、表現の効果を捉えることが難しい。</p>	<p>○日常的に短い作文や感想など、自分の考えを文章で表現する機会を増やし、書くことへの抵抗感を減らしていく。</p> <p>○辞書を手元において、新出漢字の熟語や意味を調べさせて、語彙力を高める。</p> <p>○朝読書や休み時間の図書の貸し出しなど、本に触れる時間を十分に確保して、読書活動の充実を図る。</p> <p>○表現の効果が分かりやすい例文を取り上げて、効果について理解を深めさせる。</p>	
社会	<p>○知識・技能については、概ね80%以上の到達度であるが、実生活との関わりを考えたり、自分の考えを書いたりする場面では困難さを実感している児童が多い。</p>	<p>○知識的な理解で終わらせず、「なぜ」「どうして」を問うことで、社会的事象の背景や人々の思いに気付くような展開にする。</p> <p>○導入を工夫し、学習内容と実生活との関連に注目させることで、身の回りの事象について自分の考えをもてるようにする。さらに、友達と交流する場面を設定することで考えを深められるようにする。</p>	
算数	<p>○知識・技能の習熟度を測るテストでは、A評価層が全体の25%であり、比較的少ない。</p> <p>○思考・判断・表現の習熟度を測るテストでは、B評価層が全体の60%程度に留まっており、全体の底上げが必要である。</p>	<p>○意図的・計画的に、計算技能等を十分習熟できるようにする。東京ベーシック・ドリル等の補充プリントを用意して、基礎的な問題や発展問題に取り組めるようにする。</p> <p>○根拠をもって筋道を立てて自分の考えを表現できるように、既習の振り返りを適切に行う。数学的な表現を用いて柔軟に自身の考えを表現できるよう、様々な方法を認め、比較検討させていく。</p>	

理科	<p>○知識・技能については、概ね80%以上の到達度であるが、実生活から予想したり、関連付けて考えたりする児童が少ない。</p>	<p>○日常の事象から問題をつくり、身の回りの物事から論理的に予想を立てることができるようにする。</p> <p>○日常生活と学習内容の関連を考え、実験結果を考察することができるようにする。</p> <p>○既習の内容から実験内容を計画したり、必要な道具を考えたりすることで思考力を高めるように展開する。</p>	
体育	<p>○体育の学習を楽しみにしている児童が多いが、それぞれの運動における、自己の課題を捉え、その解決に向けて思考し、判断する姿はあまり見られない。</p>	<p>○学習カードや ICT 機器を活用して自らの学習活動を振り返り、課題を修正したり、新たに設定したりして次の学びにつなげることができるようにする。</p> <p>○「する、見る、知る、支える」など様々な視点から運動に親しむことができるように指導をしていく。</p>	
総合的な学習の時間	<p>○学習姿勢が受け身で、テーマについて、さらに探究したいという児童が少ない。</p>	<p>○テーマを設定する際に、多角的な視点で調べることができるかどうか、よく吟味させて設定させる。</p> <p>○子どもたちが調べたことを基に、みんなで話し合っって疑問を集めるなど、個別や全体といった活動形態を工夫して学習を進める。</p>	